平家物語

九

九曜文庫

平家物語巻第九目録

小朝拝乃事

宇治川の事

河原合戦の事

木曽最期の事

樋口乃討死の事

六箇度合戦乃事

三草勢乃討死の事（付 三草合戦の事）

老馬乃事

一二ノ谷合戦の事

二度の
板
堂
志度の
志を
ありて
落ちの
小宰相の

平家物語巻第九

小朝拝

嘉永二年正月一日院の御所
大
院の
院の
平家

河東会戦の事

相國のこと日ところ
ゝゝめのうち乃日ハよ
六日ハ道庇日七日乃
ゝゝあのまゝハ源平矣
ゝゝゝゝゝゝゝゝ乃
大王ゝゝゝ
ゝゝ大王乃
ゝゝ大将軍
ゝゝゝゝ民田
ゝゝゝゝゝ
長ゝゝ山岩

ゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝ

…ちよりかくて二日ちを一日ちうつる
丹波ところの国のさうるかうふ三まの山
のふもとの山々小野原よりもちんをそかわらを
うふ

三草合戦乃事

平家のうち大将軍よいか和乃新三位の
中将ともとわ申ものの伯耆乃平四郎兵衛尉さね将ありより丹波
将よい伊勢乃平四郎兵衛尉無博そよ西海者の
次第をりうこれそ申ものの搦三くの
よ搦うる三まの山のふもとをまわて
ちんをそわ其東のいわの到いわよ大将
軍乃方乃ものを先うつよ侍大将土肥乃
次第そうるものを平家もれなく
三里ましてく三まの山ものふもとの山ものふもとの山ものふもと

一谷のうしろにあたりて
丹波路よりかよへる
無名もなき小さき
なわ道ありこゝを
ふもとくだりて
の仙人平山のむら
すぎをそこを山の
うしろにあたりて
東国そら地のさま
西の山なみ
この外へいすきを
御ちかうありしかど
せのをいくもの
ちりうる城のうしろ
むやうにそやと
くさそさそ
仙人ありの小太郎
年十八さいよりうすく

新中納言知盛の卿いつくしまの社の大将軍をうけたまはれり。
[illegible]よもすがらかがり火をたき夜をあかす。
[illegible]山のうらはなれ出でたる船ども
こぎあつまるやうにて、
一ぱいもしくは二はいもあるらんとぞ見えける。
そのうち五艘こぎわかれ
まわりいで、
[illegible]
[illegible]
うちかこんとや見えける。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

右のごとき功徳ありと雖も、もし西方に往生を願わずして、ただ十念となえん人をば、光明遍照十方世界念仏衆生摂取不捨とのたまえり。ねがわざらんものをば、いかでか摂取したまうべき。

小宇事相